# イスラエル内パレスチナ人

190781068　岩瀬華蓮

# はじめに

- この本を読むことによって、イスラエル内パレスチナ人に対するイスラエル政府の政策を知り、この紛争が本質的に何であるかを理解し、さらに行き詰った現在のパラダイムを変え、ユダヤ人とパレスチナ人に正義と平和をもたらす新しいビジョンの創造する

# イスラエル内パレスチナ人とは

- １９４８年イスラエル建国のときに追放とか国民性剥奪を免れた居残りパレスチナ人とその子孫
- 何十年にもわたる強制や支配にもかかわらず、「ユダヤ的かつ民主主義的国家」にある構造的差別や人種差別的法律と戦う決意をますます強めていった

# イスラエルの歴史

- パレスチナの前はユダヤ王国（3000年前）

→滅びて色々な地域にユダヤ人が離散する

- 旧約聖書にある「神は神を信じる者にカナンの地を与える」という言葉や、WWⅡによるユダヤ人虐殺から他の国の支援などもあり、1948年にユダヤ人のための国イスラエルが誕生する

→元々住んでいたパレスチナ人が難民となる

# イスラエル誕生の裏側

- なぜ先住民パレスチナ人がいたのにも関わらずイスラエルが誕生したのか
- パレスチナ人はユダヤ人よりも低価値にされたいた
- 「パレスチナは無人の地」「パレスチナ人は劣等人種」などのデタラメの流された
- イギリスという大国の後ろ盾があった

# シオニスト

- シオニストとは、「国民として適応に生きるに足りるだけの広さをもつ土地と与えてくれれば、自力で国家を建設する」というユダヤ人のための国家再建を企む思想を持つ人のこと
- この思想を持つ人たちが建国に携わったため、ユダヤ人のためだけの国家という思想がイスラエルの基礎になっている

# イスラエル

- 何十年もの間、イスラエルは「中東で唯一の民主主義国」というのが西側世界の社会通念
- バラクオバマ大統領さえも、イスラエルを「野蛮な近隣諸国」に囲まれた「小国」と言った
- 最近になって、イスラエルの政策に対する批判が、とりわけヨーロッパで高まった

# パレスチナ人

- 世界がイスラエルの政策に疑問を持たない頃から、パレスチナ人は誰もが排他的な純粋民族主義に立脚する人種差別的入植事業との争いこそが、イスラエル・パレスチナ関係の主要な一面であることを熟知していた

# パレスチナ人の要求

- 「民主主義」と呼ばれるものを求める戦い
- 「追放された人々」をも含むすべての国民の完全平等を求める
- 先住民として、及び「完全な国民的権利」の要求

→基本的人権の要求

# ユダヤ人国家

- 「イスラエル内パレスチナ人国民も民主主義的権利を享受している」とネタニヤフは言ったが、実際はそれが虚偽であり、「イスラエルはユダヤ人国家」であることを多くの法律がそれを証明している

# 帰還法

- 全てのユダヤ人はこの国に移住する権利を有する
- 「異郷生活」から「祖国」へ帰還する「歴史的権利」に基づくもので、一般の国々の「移民法とは無関係」
- パレスチナ人民族浄化の拠り所となった
- 国境をまたがって散在する難民キャンプのパレスチナ人数十万人の国籍を奪って、追い出した

# 国籍法

- 1952年の住民調査のときに存在し、しかも1948年5月のイスラエル建国以来ずっと住民登録を行っている者だけに「残留」
- イスラエルによって追放されたり、帰郷を妨げられている70万人以上のパレスチナ人は「残留」から排除された

# 違反

- 国連総会決議台181号

「委任統治パレスチナ人は設立される国家の国民となり、そこで居住し、市民的・政治的権利を有する」

- 世界人権宣言13条と15条

「何人も現在の自国を含め、いかなる国からも出国し、自分の故郷である国へ帰る権利を有する」

「何人も任意に国籍を奪われてはならない」

# イスラエルの憲法

- イスラエルには正式な憲法がない
- 国連の分割決議を契機に生まれた国のため、この国に憲法がないというのは、その決議そのものに違反することになる

→全ての人々に平等と非差別的な権利を保障する民主主義憲法の作成を義務づけられているから

# 民主主義の否定

- シオニズムプロジェクト自体が人種差別主義的で植民地主義で倫理的・政治的正当性が欺瞞
- イスラエルはユダヤ・シオニスト的価値を民主主義的価値よりも優先する

→両者は両立しないため民主主義的国家ではない

# シオニスト団体、ユダヤ機関、世界シオニスト機関

- イスラエルのユダヤ国的性格を作り上げ維持する手段となった
- ユダヤ人を構造的に特権化する指名を担う組織は単なる民間団体を超え、公的に権限がある地位に位置付けられ、非ユダヤ人国民の利益を恣意的に破壊する活動に従事する危険団体

# ユダヤ人からみたアラブ人

- 「アラブ人に対する敵対心はない。彼らとの人間関係上の問題はない。あるのは国家的問題だけ。大事なことは、イスラエルの本来的な地主は誰であるかを理解すること。地代を払うなどの金銭的な意味ではなく、この地が誰に所属しているのかということを理解すること。」

# イスラエルの矛盾

- 2011年、イスラエルの議員が「イスラエル国はユダヤ人の民主主義国家であって、すべての国民のための国家ではない」と発言した
- イスラエルの体制そのものがアラブ人とユダヤ人の平等を、理論的にも実際的にも、不可能にしている

# アパルトヘイト行政

- イスラエルへの移民促進と入植地拡大に関わってきたユダヤ機関はイスラエル国民全体のために行動する政府と違い、ユダヤ国民のためだけに活動する
- パレスチナ人は、私有化・民営化によって元々パレスチナ人の土地が「新法のもとで売却され、将来返還請求する場合には手が届かない位置にいってしまうことを恐れている

# 非公認村

- イスラエル全土にみられるが、ゲブ地域に多く、約9万人のパレスチナ系国民が40の非公認村で暮らす
- 当局は「それらの村落が存在していないかのようにみて、それらを農地または森林と分類し、そこある住宅を不法建築だとするのである」
- ユダヤ人にはインフラが整備、パレスチナ人は立ち退きや解体の脅威にさらされている

# 日常的レイシズム

- イスラエル国にはアラブ系国民がいる。これは我々にとって最悪の悲劇だ。

  ―安全保障大臣ギデオン・エズラ、2004年

- イスラエル社会には露骨な反アラブ人レイシズムがある。中央・地方の高官が嫌悪に満ちた偏見発言を行ってもあまり批判されない。

# デモクラシーというよりエスノクラシ—国家

- 紛争領土内で支配的民族集団の拡大と権力独占を進めながら、他方で民主主義的見せかけを維持しようとする体制のこと
- 民主主義的統治だと宣言しているにもかかわらず、民族が人権、権力、資源配分の主要決定要因であり、民族差別論理が社会的・政治的システムの中に浸み込んでいる

# まとめ①

- イスラエルのは、土地本来の主人公パレスチナ人の半分を追放・隔離することによってしか樹立・維持できない国家アイデンティティである
- イスラエル内パレスチナ人の存在はイスラエル政治権力の非民主主義的性格の証拠なのだ

# まとめ②

- パレスチナ人マイノリティ国民はイスラエル国民
- 唯一の解決策は、「イスラエル人とパレスチナ人が一つの国で共存することである」
- これがユダヤ人とパレスチナ人に正義と平和をもたらす新しいビジョンである